



子どもを亡くした親の会 たんぽぽの会

子どもを亡くされたご家族とともに、その悲しみや苦しみを語り、参加した方々と分かち合いながら、生きること、いのちなどについて考え、それぞれの生き方を見出すことができるようにサポートをしている、子どもを亡くした親の会「たんぽぽの会」。24年間の活動から感じることや思いを、代表の山下恵子さん（松本看護大学教授）にお聴きします。

【林】「たんぽぽ」と名付けた理由を教えてください。
【山下】たんぽぽって、すごい狭い隙間でも生えてくるじゃないですか。そういう生命力のもと咲いて、綿毛になって、いろんなところに飛んでいく。子どもを亡くすだけが厳しいわけじゃないんだけど、話もできずにいる人たちが子どもたちの残していった種みたいな思いだったり話をすることで、その子がいたという存在そのものの話ができたりするので。この子の人生こうだったんだとか、こういうことがあったとか。目には見えないけども思いという種があって、そこから芽が出て、そして花が咲いて、綿毛になって飛んでいく。風が吹くままなんですけど、誰かのところにそんな思いも届いて、そしてまたその人がそれを受けとめた時に、色んなことに気がついていく。例えば赤ちゃんを宿った時の喜びだったり、その子がいたっていうことに気づいたりするので、そういうものが種なのかなって。だけどそれって人に聞かれなければ話す機会がないわけなので、自分の中でしまっちゃうところがたくさんあると思うんです。でもこういう場に行ったら話すことで、大人であっても、赤ちゃんであっても、流産であっても、種をいっぱい残してくれてるんじゃないかなと思います。付けました。



山下 恵子さん

お水をすくうように、ちゃんと手を合わせて 受けとめてくれてるって感じます。



【林】活動について教えて下さい。

【山下】通常のたんぽぽの会を年4回と、9月に「事故の会」、1月に「死産・流産の会」を行っています。

事故だと「いつてきます」が「さよなら」になって。しかも永遠のさよならになってしまふ。突然、さよならをすることになった人たちだけの、そこでは話せない、その人たちだからこそ話せることもあるかなと思ひ、「事故の会」を作りました。「死産・流産の会」も必要だになって思ひ作りました。産み月で、普通に生まれると思ひ病院に行ったら、もう心拍がなかったという人も来てたんですね。当然、生まれるもんだと思ひていて、そうなることもう計り知れない。どちらも想像できない世界です。ちゃんと話せるその場でしか聴いてもらえ

ないようなことを、みんなで共有するって大事なことなくじゃないかなと「事故の会」と「死産・流産の会」を作りました。

【林】話すことで、どのような変化を感じますか。

【山下】流産された方がよく言われるのは、「次の子」って言われるパターンが多いんですね。流産しちゃった子じゃなくて、次の子を頑張ってる。そうじゃなくて、その子を宿った時の思ひだったり、つわりとかいろいろあったり、その子との思ひを大事にしつつ、でも今ももう会えないんだっていうことの区切りというか、そういうのにはなるのかな、話すことによって。その子の存在を認めて、その子の人生の始まりと終わりのところをきちっと受けとめられるのかなと思ひています。

【林】家族に話すのとは、違うのでしょうか。

【山下】家族だから話せないってことも、あるかもしれないですね。いつまで泣いてるんだとか言われると、表現しづらいないんだ、子どものことを話したいけないんだなっていうのもあるし、身内の方が近いが故に、いろんなことを話せない。



話すことによって、家族も辛くなるかもしれない。

【林】それぞれの悲しみ、辛さがあるということでしょうか。

【山下】そういう悲しみがあることを分かっていうことも大事なような気がするんですよ。人それぞれの亡くなり方、それぞれだけど、そういう悲しみがあるんだ、辛さがあるんだっていうことをみんなが分かっていくことをみんなが分かっていくの気持ちにはなれないかもしれないんですけど、そういうことを受けとめることによって、その会が少し豊かに、豊かになってきたら変なんですけど、そういうような感じがしています。

【林】受けとめてくれるから、話せるんですね。

【山下】ちゃんと手を合わせて受けとめるというか、お水をちゃんとすくうみたいな感じでやってきてるなっていうのはすごく感じます。それだけでちょっと元気になって表情が変わったりとかあるので、同じ体験してるからこそ、向き合ってるんじゃないなくて横に並んで話を聴いてるみたいな、そこに向き合ってるけど、気持ち横に並んでくれているって、私はそんな感覚で聴いてるんですよ。今話している人は、辛いことを思ひ出している。その人の側にいて、ちゃんとその言葉を受けとめようとしている。受けとめきれないものもあると思うんだけど、そういう行動というか、思ひというか、伝わるんじゃないかなって。それは研究していかないから分からないんですけど、そういう不思議な感じがあります。

インタビュー動画



ブログ



松本市市民活動フェスタ2025が開催されました。

『松本市市民活動フェスタ2025を終えて』

秋晴れのお天気にも恵まれ、多くの方にご来場いただきました。

参加団体は40団体と年々増加しており、博物館での開催は立地条件も良く、秋のイベントとして定着してきた気がします。

今年のフェスタの特徴は、大きく3点あったと感じています。

まず、運営面では皆で話し合っただけで配置や発表順を決めたこと。また、準備の段階から最後の片付けまで、皆さんが積極的に協力してくださり、団体交流も顔の見える関係になりました。

2点目は、子どもたちが楽しめる参加型の工夫が見られたことです。クイズや実際に体験して遊んでもらうブースが人気でした。

3点目は、若い世代との交流が目立ちました。団体側では、若い方が自分の趣味を通じてその団体の活動に興味を持ち、活動に参加し、今回のフェスタでプレゼンを務めていました。代表が「若い人がみんなやってくれる」と微笑んでいる姿が印象的でした。

参加者側では、初めてポッチャを体験する学生や、高齢者と子どもたちが昔のお手玉を扱って一緒に盛り上がっていました。



「市民活動を知ってもらう」「交流を楽しむ」といったフェスタの目的は達成できたと感じています。更に良い方向へ進めて行くには、アンケートの中にヒントがあると思いました。

参加者アンケートでは「今回のフェスタは楽しかった」「来年も来たい」という回答が多かったです。その他「会場全体が盛り上がっていて楽しめました」「知らない団体について知る機会になった」「息子が楽しんでいた」「講堂の発表がよかった」「お手玉がめちゃ楽しかった」などの感想がありました。

子どもから大人まで、いかにフェスタに来ていただけるかが“カギ”だと思いました。

参加された皆さん、ありがとうございました。

(松本市市民活動サポートセンター センター長 清水口)

まるっと交流ひろば「みちばた」を開催します！



地域活動は様々な人や団体から成り立っています。市民活動団体同士での悩み相談や情報交換は、新たな活動につながるかもしれません。

そこで、道端で井戸端会議をするようにふらっと来て、気軽に話せる場を作り、市町村を越えた新たなつながり（市民活動の輪）がさらに広がることを応援する「まるっと交流ひろば みちばた」を開催します。詳しくはチラシをご覧ください。

ご参加をお待ちしております。

イベント・助成金・活動に役立つ情報をご紹介します！

『インフォメーション』コーナー

2025年度 ボランティア コーディネーションカ3級検定

市民の社会参加を支えるチカラ

ボランティアコーディネーションは、単にボランティアしたい人と受け入れたいニーズをつなぐという意味だけの機能ではなく、一人ひとりが市民社会づくりに参加し、さまざまな課題に対して、その力と可能性を発揮できるように支えるものです。

ボランティアや
地域活動を
繋げたり
広げたりしたい！

検定日 **2025 12.19 (金)**

試験時間：14時～15時

会場 小諸市社会福祉協議会 2階大会議室
(小諸市与良町6-5-1)

直前研修 オンデマンド配信

12.5(金)～12.19(金)まで

※検定当日までに直前研修を受講することが受験の要件となります。

受験料 12,000円

問合せ 長野県社会福祉協議会
まちづくりボランティアセンター
TEL:026-226-1882
MAIL:vccenter@nsyakyo.or.jp

地域の活動や人が
もっと力を
発揮できる
ようにしたい！

申込み

【主催】社会福祉法人 長野県社会福祉協議会
認定特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会

SNSでお困りですか？

登録・使い方・伸ばし方について



SNSを活用してインターネット上での認知度を高めて発信力をつけていきたい。でも登録・使い方・伸ばし方がわからない方。Google、YouTubeの認定資格を持つ当センターの林に、お気軽にご相談ください。

イベント情報

松本市市民活動サポートセンターのホームページでは、イベント情報を多数掲載しております。ぜひご覧ください。



助成金情報

松本市市民活動サポートセンターのホームページでは、助成金情報を多数掲載しております。ぜひご覧ください。

助成金、補助金、クラウドファンディング等の活動資金についてのご相談は、当センターの林に、お気軽にご相談ください。



「お湯はある」10月18日(土)に開催します！

市民活動団体同士の交流の場「お湯はある」が、4月からスタートしました。これから市民活動を始めたい方や、「何か」をしたいと思っている方もご参加いただけます。その名の通り、お湯と茶器をご用意しておりますので、飲みたいものをお持ちください。

会場は松本市市民活動サポートセンターです。お気軽にふらっとお立ち寄りください。お茶を飲みながらお話ししましょう。

市民活動団体の交流の場

10/18(土)

10:00～12:00



お湯はある

市民活動サポートセンター（大手事務所2階）

